

フォーラムの概要

名 称 防災トイレフォーラム 2021 トイレから考える自助・共助・公助の連携

日 時 2021年11月16日(火) 13:30~16:30

方 法 Zoom ウェビナーによるオンライン

対 象 自治体の防災に関する担当者ほか

参加費 無料

締 切 定員になり次第締め切らせていただきます

主 催 特定非営利活動法人日本トイレ研究所

共 催 徳島県

事務局 特定非営利活動法人日本トイレ研究所(担当:松本、島村)

〒105-0004 東京都港区新橋5丁目5-1 IMCビル新橋9F

TEL 03-6809-1308 / FAX 03-6809-1412 / www.toilet.or.jp

受講に際してのお願い

- ① @toilet.or.jp と@zoom.us からのメールが受信できるようドメイン設定をお願いいたします
- ② スマートフォン、タブレットで受講される際は事前に zoom アプリをインストールお願いします
PC の場合、ブラウザからのご参加いただけます
- ③ 資料は開催の約1週間前よりダウンロード URL をご案内いたします
- ④ 11月10日(水)までに視聴用 URL が届かない場合はお問い合わせください
- ⑤ 部署で複数人参加の場合は代表者のみの申込みとし、聴講人数を記載ください
- ⑥ フォーラムの内容について録音、録画はご遠慮ください

防災トイレフォーラム 2021

トイレから考える自助・共助・公助の連携

お申し込みはこちら▶



<http://www.toilet.or.jp/studies-forums/bousaitoilet2021/>

フォーラムプログラム

13:30 **【開会挨拶】**

加藤 篤 (特定非営利活動法人日本トイレ研究所 代表理事)

13:40 **【講演】 これからの防災における共助の育み方**

加藤 孝明 氏 (東京大学生産技術研究所 教授/同社会科学研究所 特任教授)

切迫する南海トラフ巨大地震、気候変動に伴う水害の激甚化、頻発化、さらにコロナ禍、防災を取り巻く環境は厳しさを増しています。同時に地域社会では、人口減、超高齢化など、深刻な課題が山積しています。私たちは、災害にどう備えていくべきなのか、備えていけるのか、この問いに対してどこにでも通用する正解は存在しません。それぞれの地域で持続的な災害への備えを定着させることを目指して、地域の特性に応じたそれぞれの答えを探求していく必要があります。本講演では、地域で正解を見出すために必要とされる防災に臨むスタンスと共助の育み方についてお話いただきます。また災害時のトイレ対策についても触れてもらいます。

14:20 **【事例 1】 被災地の女性たちが直面した困難を繰り返さないこと**

宗片 恵美子 氏 (特定非営利活動法人 イコールネット仙台 常務理事)

「東日本大震災に伴う『震災と女性』に関する調査 (アンケート)」や「40 人の女性たちが語る東日本大震災 (インタビュー)」を踏まえ、女性のための防災リーダーの養成に取り組んできました。特にトイレや衛生のあり方は、女性にとって大きな課題です。被災地の女性たちが直面した困難を繰り返さないために、共助において、何をすべきか、また、安心できる避難所運営をするためには、どのような役割分担が必要なのかについてお話しいただきます。

14:50 **【休憩】**

15:00 **【発表】 災害時トイレ対策の基本的考え方**

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

15:15 **【事例 2】 徳島県における避難所及びトイレ環境の質向上の取組**

坂東 淳 氏 (徳島県危機管理環境部 危機事象統括監兼副部長)

徳島県では、「災害時のトイレ確保」や「避難所の環境改善」を図るため、「徳島県災害時快適トイレ計画」を平成 29 年 3 月に策定しました。さらに、この計画を実効性あるものとするため、自助・共助・公助の別に具体的なトイレ施策をロードマップとして取りまとめた「アクションプラン」を平成 29 年 8 月に策定しました。これらを基に、トイレ対策をはじめとする「避難所の QOL の向上」に向けた徳島県の具体的な取組についてお話しします。

15:35 **【意見交換】 災害時トイレ対策の役割分担について**

回答者 加藤 孝明 氏、宗片 恵美子 氏、坂東 淳 氏

進行 特定非営利活動法人日本トイレ研究所

16:30 **【閉会】**

講師プロフィール

加藤 孝明 氏（東京大学生産技術研究所 教授／同社会科学研究所 特任教授）

災害シミュレーションの開発を行うほか、「防災【も】まちづくり」を提唱し、各地での実践を通して防災を主軸とした「総合的な」まちづくりの理論構築を行う。東京都心業務地区から地方の小集落まで各地域の特徴を活かしたモデルを地域と共に考える。関わる地域は、総務省防災まちづくり大賞（葛飾区新小岩北地区、2015）、レジリエンスアワード（伊豆市土肥地区、2018）、国交省先進的まちづくりシティコンペ（徳島県美波町伊座利、2018）を受賞。内閣府地域防災力の向上を目指すアドバイザーボード座長他防災関連の委員を務める。地区防災計画学会論文賞他。徳島県美波町伊座利にサテライト研究室の看板を掲げる。



宗片 恵美子 氏（特定非営利活動法人 イコールネット仙台 常務理事）

男女共同参画社会の実現に向け幅広く取り組むとともに、男女共同参画を核としたネットワーク形成をめざし活動を行っている。2003年、男女共同参画の推進に向け、イコールネット仙台の設立にかかわる。2008年、仙台市内の女性を対象に「被災時における女性のニーズ調査」を実施した。震災発生以降、避難所・仮設住宅の訪問を行い、女性の現状把握に努めるとともに「洗濯代行ボランティア」や「被災女性のための語り合いサロン」等に取り組んだ。2013年から、「女性のための防災リーダー養成講座」を実施、人材育成にも取り組んでいる。



坂東 淳 氏（徳島県危機管理環境部 危機事象統括監兼副部長）

徳島県危機管理環境部において、自然災害から感染症、国民保護など危機事象に対する体制構築や官民連携に従事している。特に自然災害については、防災・減災から復興までの様々な行政施策に、新たな知見を導入するため、研究者との交流に取り組み、実装できた施策については、様々な学会で発表し改善に努めている。また、全国的な支援が必要な広域災害発生時には、総務省が運用する「災害マネジメント総括支援員」として、県外の被災自治体支援にも従事している。



特定非営利活動法人日本トイレ研究所

日本トイレ研究所は関係機関と連携し、ネットワークを組みながらトイレの改善をとおして、誰にとっても安全・安心できる地域社会づくりと健全な地域環境づくりに貢献することを目的としており、公共トイレに関する調査・研究、トイレ教育、トイレ環境の改善に向けた普及啓発を柱にししながら、トイレ環境はどうあるべきかを総合的に研究し、トイレからの社会改善に向けて活動しています。また、平常時から災害時トイレ衛生対策を推進し、災害にも安心して使用できるトイレ環境をつくる人材の育成にも尽力しております。

Labo.
日本トイレ研究所